

須坂市における外国人の居住実態と 住環境の整備のあり方に関する研究

信州大学 教育学部
家庭科教育コース4年
内田沙也加



1. 研究の背景と目的



1-1 研究の背景

2050年の日本の人口は1億人を下回ると予想されている。

人口の減少と少子高齢化社会の進行

2050年の1人当たりGDPは韓国に抜かれる可能性あり
(日経新聞)

経済規模の縮小、国際競争力の低下、
働き手の不足

外国人の存在が高まる



外国人の受け入れの現状

外国人の増加

2019年の訪日外国人・在留外国人の人数は過去最高。
2019年6月の在留外国人の人口は約283万人となり、日本の総人口の2.24%を占めるようになった。

法改正

2018年に「出入国管理及び難民認定法及び法務省設置法の一部を改正する法律」が成立。特定技能の資格を創設し、5年間で最大で34万人の外国人を受け入れる計画予定。

外国人に関する課題

不法滞在

不安定な
雇用

文化のすれ違い



1-2 研究の目的

持続可能な日本社会の実現

多文化共生社会
の実現が必要

外国人の存在が重要

地域の人々と外国人が住みやすい
多文化共生環境について調査と考察を
し、

お互いの人生をよりよくすること



2. 調査概要



2-1 調査計画・方法

① 統計調査

須坂市に居住する外国人の年齢別・町別の経時的な人口データを基に、過去から現状までの動向の考察を行った。分析はエクセルを用いてデータの集計と分析をした。

② インタビュー調査

▶ インタビュー(1)

長野県北信地方で就業している外国人2名を対象に調査を行った。調査内容は個人属性、住まいの環境、地域の環境、対人関係の環境、仕事の環境、日本全体の環境の6項目を尋ねた。

▶ インタビュー(2)

須坂市で宿泊業を営んでいる方1名を対象に調査を行った。外国人から見た須坂市の街の環境についての評価を依頼し、須坂市の現状と課題の考察を行った。



3. 結果と考察



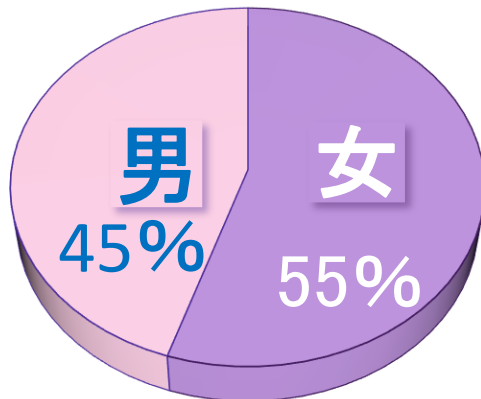
現在の須坂市の人口の状況

平成31年（須坂市提供の年齢別人口データ）

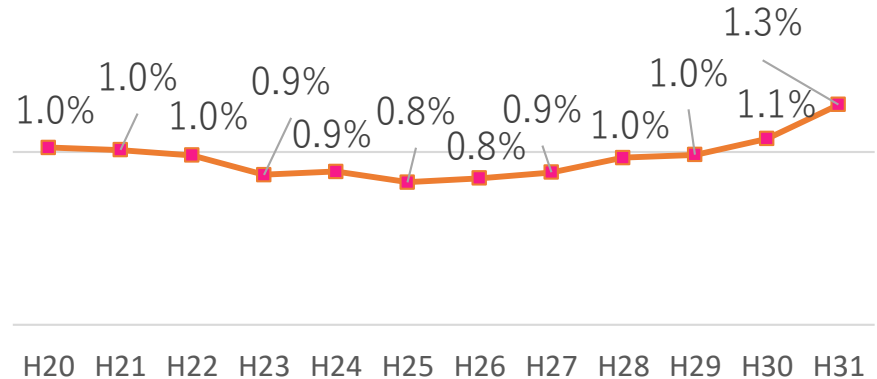
須坂市の人口	外国人の人口
50731人	647人

人口の
約1.3%が
外国人

長野県全体
では1.5%
が外国人



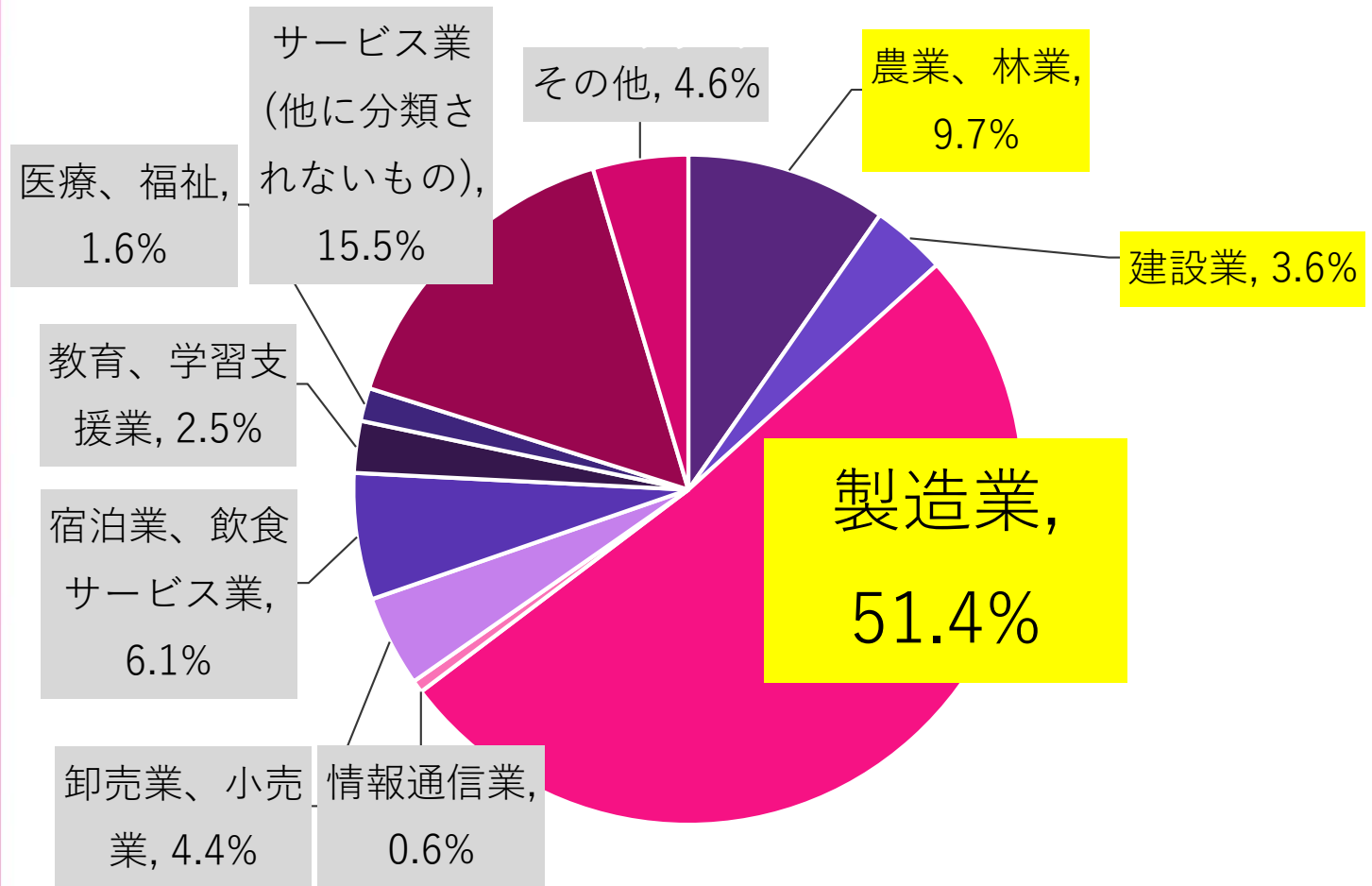
須坂市の外国人の人口の割合の変化



須坂市の外国人の77%は労働者
長野県は約50%が労働者

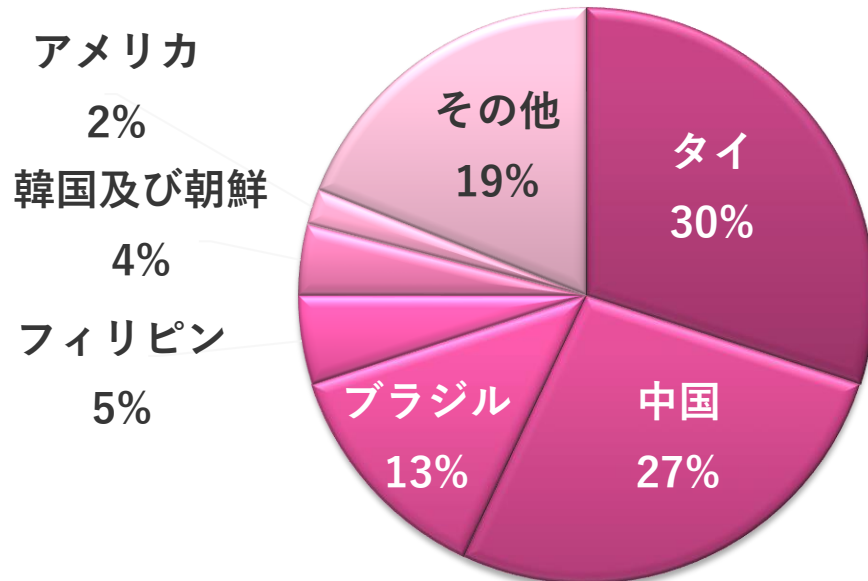


長野県の外国人の産業別就労割合 (H30 長野労働局)



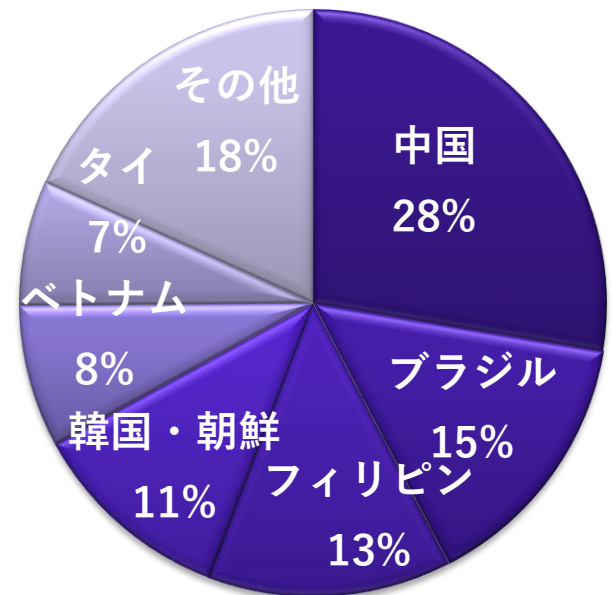
須坂市の在留外国人の国籍

須坂市の在留外国人の構成比
(H29) 須坂市HP



須坂市は、長野県と比較するとタイ人の割合が高い

長野県(H29) 長野県HP

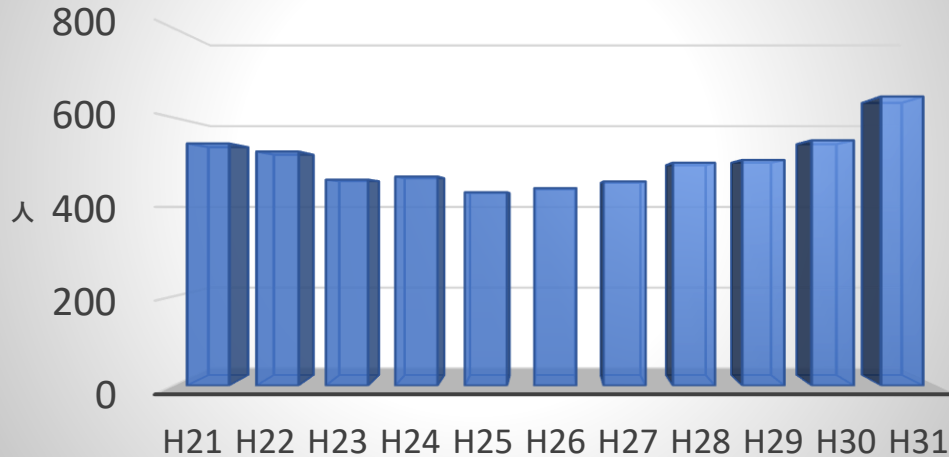


日本全体と比較をすると
須坂市はブラジル人、
タイ人の割合が高い



3-1 人口の変化

須坂市の外国人人口の変化



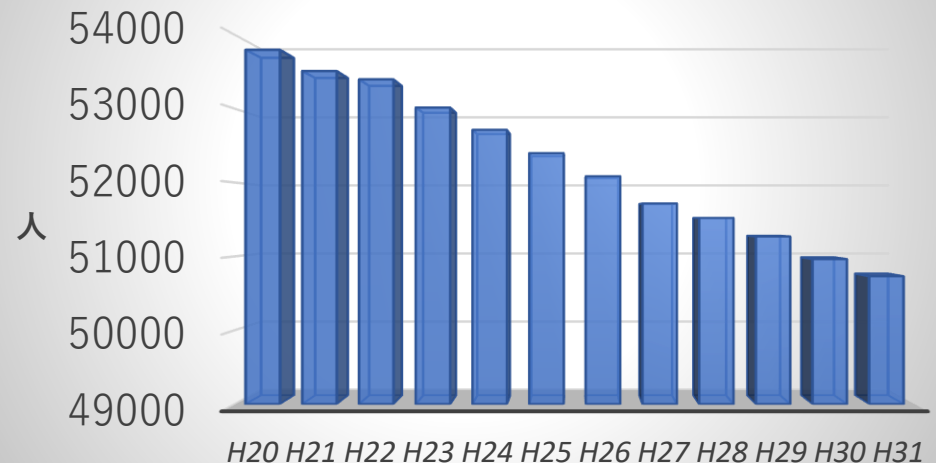
須坂市の外国人人口は
6年連続で増加

須坂市の人口はさらに減り続け、
2040年には38,508人まで
減ると予想されている

須坂市の人口は
12年間で5.7%減少

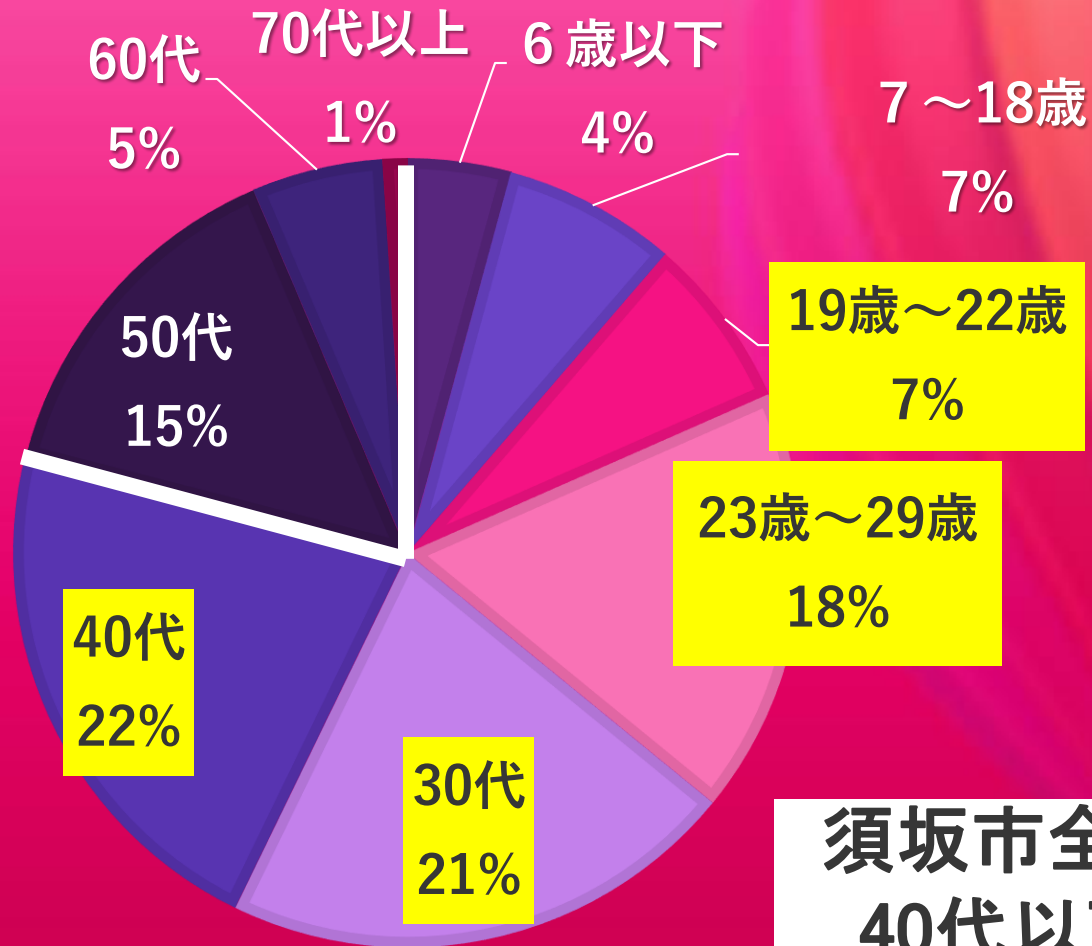


須坂市の人口の変化



過去5年間の須坂市の 外国人の人口の年齢別割合の平均

外国人の
80%が
40代以下



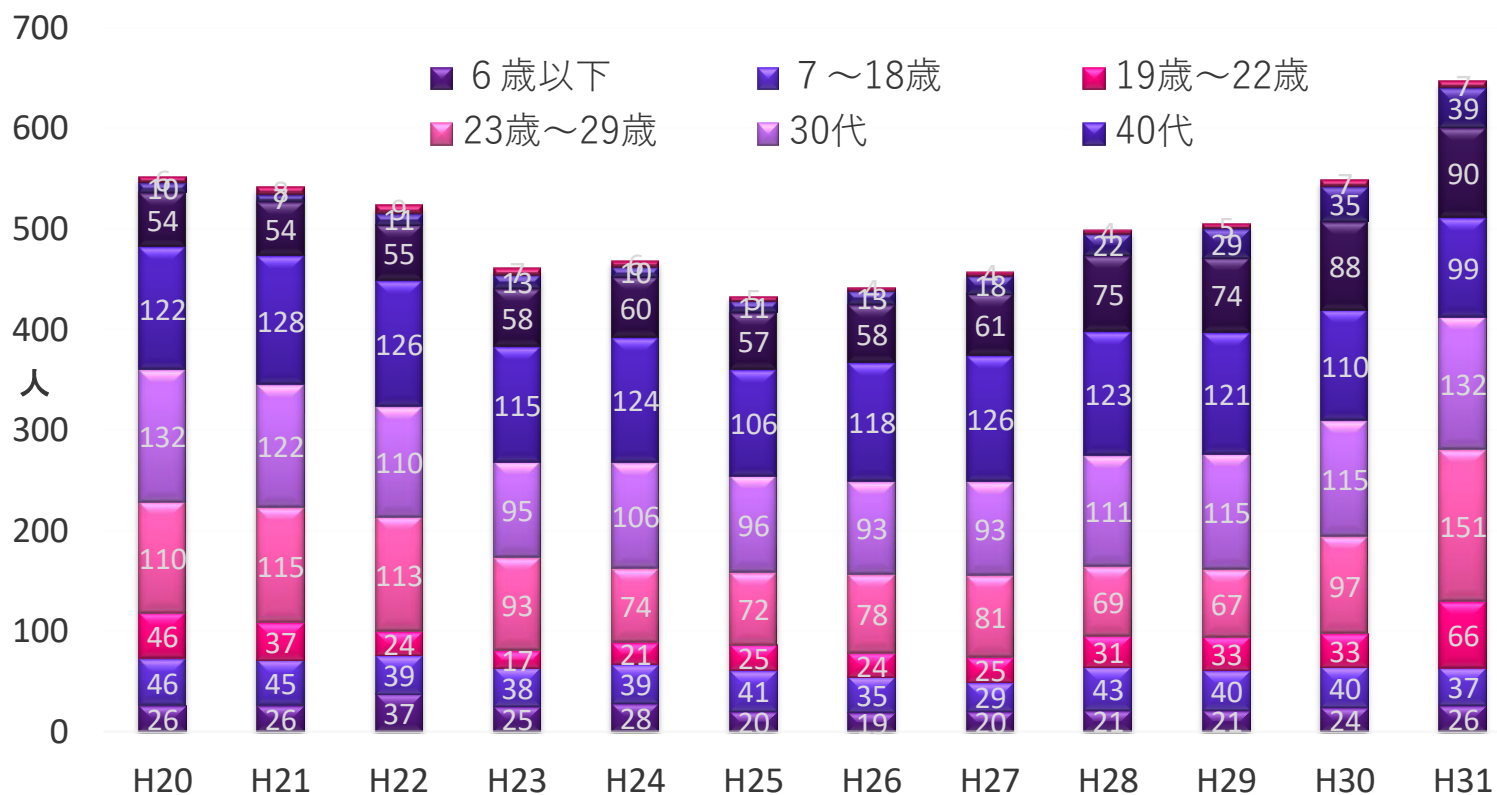
須坂市全体の
40代以下の
人口は約50%



若い世代
が急増
している



須坂市の外国人人口の 年齢別変化



19～22歳の人口は6年間で
2.8倍に増えている

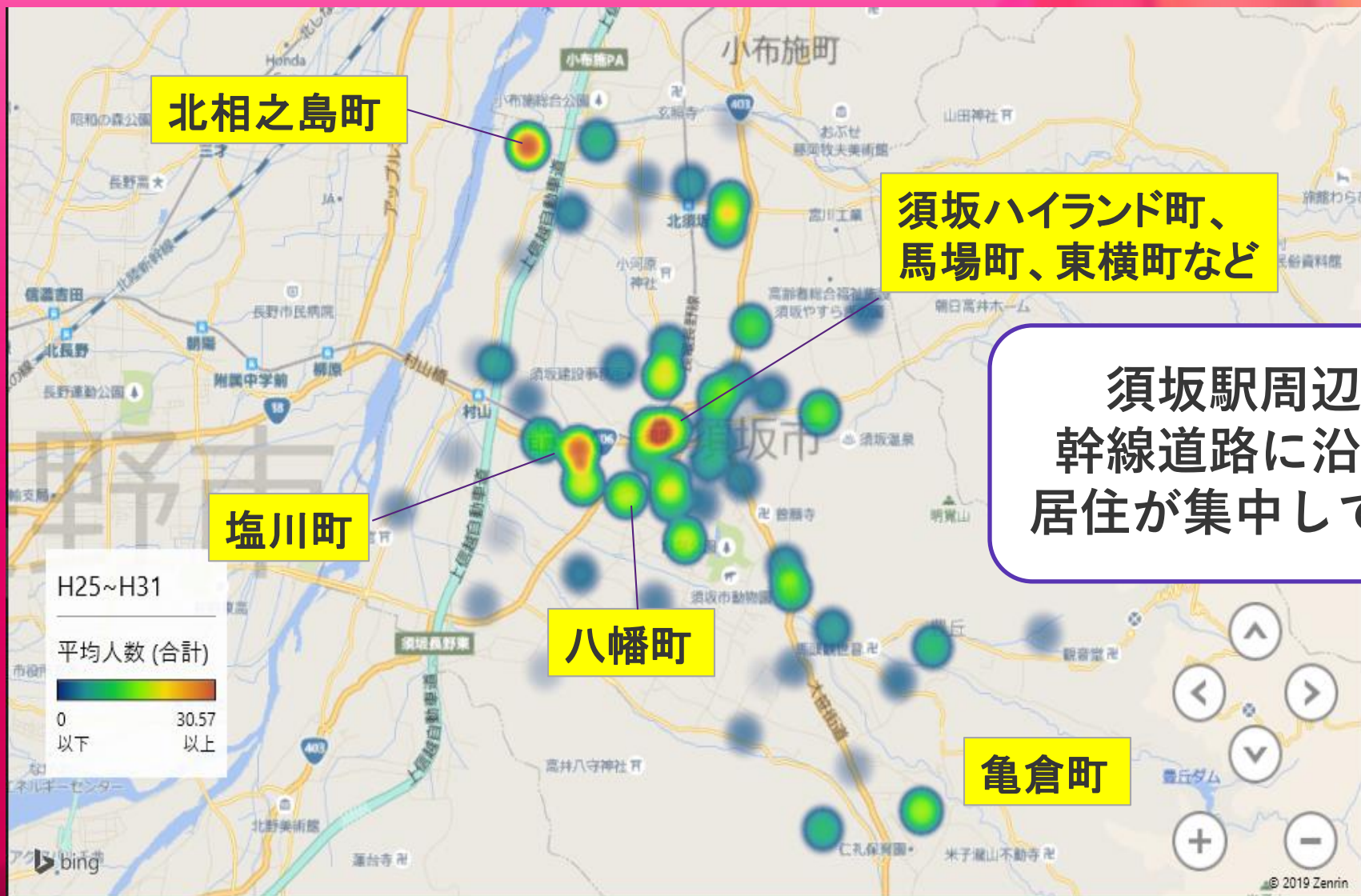
須坂市における外国人の居住地

平成25年から平成31年までの各町の外国人の平均人数

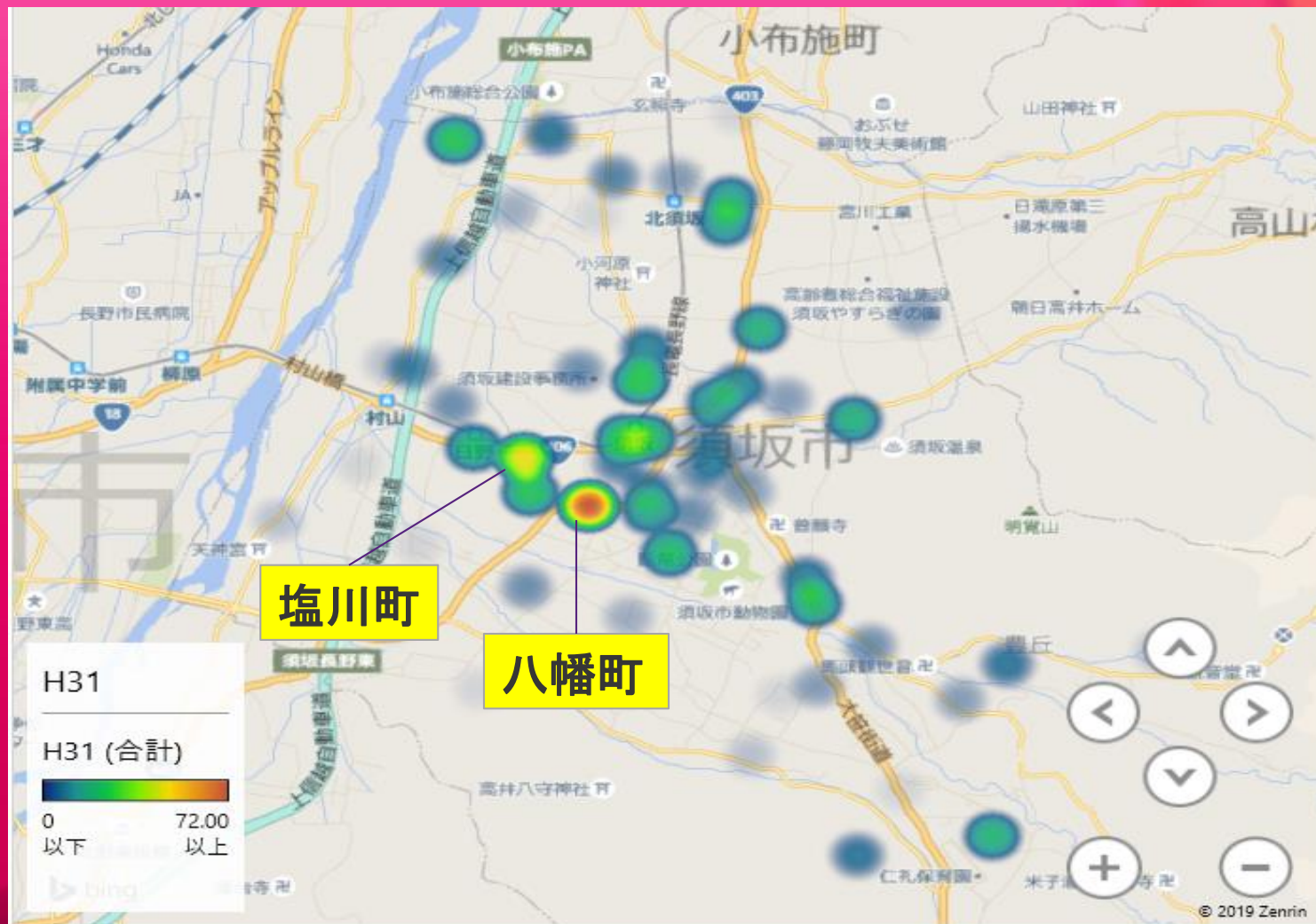
外国人の平均人数	地区名
30人以上	北相之島町(30.6人)
20人以上	塩川町(29.6人) 須坂ハイランド町(21.7人)
10人以上	春木町 東横町 北横町 馬場町 南原町 小山町 八幡町 堺沢町 相森町 大谷町 旭ヶ丘町 北旭ヶ丘町 高梨町 亀倉町
10人以下	穀町 上町 本上町 上中町 中町 太子町 新町 常磐町 横町 南横町 立町 坂田町 北原町 屋部 町 高橋町 本郷町 南小河原町 小河原町 新田町 小島町 相之島町 豊島町 松川町 光が丘ニュータウン 八重森町 五閑町 村山町 田の神町 井上町 福島町 中島町 九反田町 幸高町 米持町 上八町 野辺町 村石町 明德町 望岳台 仁礼町 夏端町 塩野町 峰の高原 大日向町 豊丘町 豊岡上町
0人	西町 高畑町 沼目町 二睦町 下八町 米子町



須坂市の外国人の居住地(H25～31)



須坂市の外国人の居住地の分析(H31)



町別の外国人の人口割合

外国人の割合が高い上位6地区（H25～H31の平均）

5地区は
いずれも
須坂駅周辺

町名	外国人の割合	外国人の人口	町の人口
須坂ハイランド町	9.4%	21.7人	229.9人
横町	4.0%	4.4人	109.9人
北横町	3.8%	19.9人	522.9人
(中町)	3.0%	1.4人	47.6人
北相之島町	2.9%	30.6人	1054.9人
東横町	2.3%	12.3人	528.3人

須坂ハイランド町は
10人に1人が外国人
(マンションの住民の
10人に1人が外国人)



統計調査の結果

- 須坂市には若い世代の外国人が増えている。
- 外国人の居住は中心地と郊外の二極化している。
- 近年では駅の近くではなく、駅から少し離れたところに居住が増え始めている。



3-2 インタビュー調査(1)

対象者：須坂市近郊で就業している外国人
AさんとBさん 2名

①個人属性

項目	Aさん	Bさん
性別・年齢	20代女性	20代男性
出身国	中国	ベトナム
宗教	なし	仏教
日本に住んでいる 期間	5年	3年
交通手段	徒歩・車	
住居	社宅(アパート)	
部屋の人数構成	1人	2人



②部屋の環境

臭い	よくない(夏は特に生ゴミの臭い ^臭 がこもる。	よくない
騒音	騒音トラブルあり。壁が薄い。	建物内で音が響きやすい
風通し	よくない。夏はドアを開けると蚊が入ってきたり、生ゴミの臭い ^臭 がしたりする。	
家の広さ/間取り	収納スペースがなく物をしまいづらい。 1人で住むには十分だが、2人だと狭く感じる。	
下水道(排水設備)	流れは良いけど夏場は臭う ^臭	流しがたまに臭う ^臭 時がある
日当たり	南向きでよい	



③地域の環境

項目	Aさん	Bさん
買い物の便利さ	しづらい	
公共交通の便利さ	バスはあるが本数が少ない	
交通の安全	安全	
娯楽・レジャー	遊ぶところがなくて東京に行きたい。特に冬は何もない。	遊ぶところがない
地域の人と交流をする機会	同僚以外にない	
学習をする機会	ない。地域の人から連絡や知らせがない。地域の活動があれば行きたい。	ない
歴史や伝統文化を感じる	温泉	図書館でいろんな物を見ることができる。
インターネット環境	社宅にwifiがあるが自分の部屋まで届かない	外にはfree wifiが少ない。ベトナムにはもっとある。





治安	よい	
自然災害の対策	台風のと看テレビのテ ロップをみて、居住地 域が表示されていて戸 惑った。会社の上司か ら電話をもらった。	会社の上司から電話を もらった。会社の同僚 に聞いて避難するか聞 いた
避難場所	台風19号の時はどこに避難をしたらいいかわ からず、家にいた。避難に關しての連絡は近所 の人か上司しかいなかった。	
ゴミ出しのルール	難しい	難しい生ゴミや可燃は わかるが、特別なもの だとわからない。
情報の得やすさ	近所の情報は外国人 の友達のみ。地域の方 と交流会がほしい。日 本のことが好きだから 地域の方と交流をした い。	長野市のベトナム交流 会に参加した時に日本 人と交流ができて楽し かった。日本人は仕事 の關係だけ。
空気の綺麗さ	よい	
自然環境	よい	

④対人関係

項目	Aさん	Bさん
全体的な人間関係	日本語が不安になる時がある。	言いにくい時は言わないようにしている。
近所の人との人間関係	関わりがない	
友人との人間関係	友人はいる。日本人もいる	回答なし
新しい人を受け入れている？	2人とも最初は難しく感じる。1年目の時は会社の人に聞きづらかった。日本人はよく雰囲気を読めという。忙しい時に聞いていいのか判断しづらい。	冷たい感じがある。 雰囲気を読めといわれても相手の気持ちの全部はわからない



⑤職場の環境

項目	Aさん	Bさん
ワークライフ バランス	労働時間が長い。就業後に家で何もやることがない。残業が多く、バランスがよい。周りの人は帰るように言っている。	ベトナムは定時に終わるが、日本は定時になっても終わらない。 ノー残業デーがあっても次の日が忙しくなる。
仕事の内容	人員が少ない。仕事内容は目標を達成した時は楽しく感じる。	仕事量が多い。
就業上の倫理・規則	本国に比べて厳しい、すぐ終わる仕事でも登録をして申請をしないと通らない。	本国に比べてルールが厳しい。何でもルールがある。日本では打ち合わせが必要(Aさんも同様)。
上司との人間関係	忙しすぎて話を聞いてくれない。新人教育が十分ではない。	困っている時に誰に頼ればいいのか分からない。



⑥日本全体の環境

項目	Aさん	Bさん
日本にあればいいもの	回答なし	交流会 で日本人との交流の機会が増えれば楽しくなると思う。
日本の社会や文化のよくない点	日本人が我慢をすることが多い。研修生は仕事以外にも 交流 や楽しいことがあれば、日本で楽しく過ごせると思う。	日本人は友達になるのが難しい。話の距離感を感じる。遊びがなにもない。



インタビュー(1)から浮かび上がった課題

環境	課題
部屋	空気質の環境
地域	若い人に向けた娯楽、 交流、災害時への対応
対人	友人(外国人)ではなく、 日本人との対人関係
職場	ワークライフバランス、 就業後の余暇の過ごし方



3-3 インタビュー調査(2)

対象：須坂市で宿泊業を営んでいる方 Cさん 1名

項目	Cさん
利用されている方の個人属性について	欧米系、男性、20代前半、バックパッカー、1人旅の人が多し。友人同士でも来ることがある。ほぼみんな無宗教だが、 ベジタリアン が多い。
日本の滞在期間	日本には10日～2ヶ月滞在する。
宿泊期間	2、3泊～1週間
外国の方の交通手段 (須坂市の中で)	徒歩が多い
よそに行く時は	電車
日本語力	話せない。ホテルに泊まる外国人よりは交流を求めているので、 日本語を話そうとする学 ぶ意欲がある。
ここにくる目的は スノーモンキーか	今は 静かな日本の田舎を目指してきている 方がメイン。
外国人の行動	ほぼ何もしない。 1週間泊まる人は半年から1年単位で世界を旅行していて、休みを取っている。家族に葉書を書いたりスカイプで連絡をしたりしている。





須坂市に来る理由	旅行者はあえて長野市をはずして須坂市へ来ている人が多い。須坂市を選んで来る人はほぼ0%で、長野駅から近いどこかだと認識している。旅慣れている人が多く、新幹線が止まる長野駅は都会すぎると考え、須坂市に来ている。
須坂市が選ばれる理由	予約サイトのレビューや口コミから選んでいる。外国人たちは、小田切家やクラシック美術館は全然知らなく、それらを目当てで来ているわけではない。
小田切家やクラシック美術館について	全く知らない。須坂に来る外国人は、「こんな町にこんなものがあるんだ」という驚きを求めている。何も期待せずに静かな町だと思っている。スタッフの町情報の案内により行くことができる。田中本家博物館も知っている様子がない。
スノーモンキーに対する印象	冬はよくない。最近は観光地化されていて、夏の誰もいないときの方がよかったという感想がある。30分の林道は印象がいい。
外国の方にとって必要なもの	ベジタリアンの対応しているお店が少ない。彼らは日本を旅しにくい。



須坂市の多文化共生について	日本全体に言えることだが、日本への印象は旅行者と日本に住んでいる外国人との間にギャップがあり、 外国人居住者に対して、日本は鎖国的な様子 がある。イベントや警報などの情報の発信が充実していない。
上の回答の理由	日本の国の制度 が関係している。市役所の手続きの書類には英語やベトナム語の書類が見当たらない。住民票や転出転入などの基本的な情報だけでも他の言語の用意があればよいと思う。
外国人にとって須坂市にあるとよいもの	1人でも良いので 信頼関係を作ること が必要。「外国の方を理解しましょう」と言葉で言っても難しいが、実際にその国の人に会えば印象が変わる。外国人は地元 に友達 ができると、楽しむことができる。
外国人にとって不便なもの	町の店主と連携がとれていて、外国人が1人で行くことができる。オーナー同士顔が見える関係がある。長野市は大きすぎてつながりがもてるのかわからない。

町の仕掛けのアイデアについて	英語の先生によると日本は知らない人と出会うのが難しく、交流の場の設置が必要。 Nagano meet up party を定期的に開催している。
口コミが多いのか	レビューと旅先での情報交換がある。レスポンスは早い。
その他	留学生はなかなか国の紹介をする機会が少ない。 地元に住んでいる若者と交流できることは生活を楽しめる鍵



インタビュー(2)から浮かび上がった課題

- 外国人旅行者は休養の目的で須坂市を訪れているが、須坂市の観光資源についての知識はない。
- 外国人居住者は日本が鎖国的だと感じている。具体的には居住するための行政手続きなどが外国人に対応していない。
- 望まれる町の仕掛けとしては、交流の場が考えられる。



Nagano meet up party に参加してみて

飯山市から
電車で来て
いる人も!!



facebookのページより

参加日: 2020年 1 月31日
場所: シソーラス

(長野市中央通りの権堂付近)

参加者の様子:

さまざまな年代の人が参加していた。外国人の割合は半分程度。特定の場所以外は英語の使用が原則。

1人で参加したので、最初は戸惑ったが、途中からゲームをきっかけに、交流をすることができた。友人作りのきっかけの企画が充実していて、交流が盛んに行われていた。



4. まとめ



須坂市が旅行者にも、居住者にも 愛される町であるために…

▶ 増加する若い世代の外国人に対する工夫

- ・ 若い人が楽しめるような娯楽
- ・ 外国人に対する手続きなどの効率化
- ・ **災害が起きた時に頼りになる可能性がある**

▶ 情報の共有ルートの確立

- ・ **災害時の情報やイベント情報の伝達**

▶ 交流の場の機会

- ・ 地域の人々がお互いに理解し合える機会
- ・ 外国人にとっての居場所づくり

町が好きなのはそこに良い人がいるから



須坂市の観光に関する環境

▶観光地化されていない魅力がある

- ・期待していないからこそ、得られる喜びがある
- ・旅行者は長野市にはない魅力を求めて来ている
- ・小さい町だからこそ、**町の人たちと触れ合い**ができる
- ・**旅慣れた外国人**に選ばれやすい

▶須坂市の観光情報の発信の必要性

- ・小田切家やクラシック美術館や臥竜公園のPR
↑ **口コミやレビューが役立つ可能性あり**

▶旅行者への環境整備

- ・外国人の文化に合わせた施設整備
- ・温泉など、離れた場所への交通手段の整備



参考資料

須坂市ホームページ

<https://www.city.suzaka.nagano.jp/contents/item.php?id=5c99836dcf957>

長野県ホームページ

<https://www.pref.nagano.lg.jp/kokusai/sangyo/kokusai/tabunka/tabunka/jumintokei.html>

日本経済新聞 記事

https://www.nikkei.com/article/DGXNASFS1600I_W2A410C1EB1000/

<https://www.nikkei.com/article/DGXKZO15014300W7A400C1M11000/>

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO51391210V21C19A0EA3000/>

総務省

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h30/html/nd101100.html>

日本政府観光局

https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/data_info_listing/pdf/200117_monthly.pdf

長野労働局

<https://jsite.mhlw.go.jp/nagano-roudoukyoku/content/contents/houdou30-67.pdf>



謝辞

本研究にご協力してくださった、
須坂市役所まちづくり課の皆様、
インタビューにご協力してくださった
外国人の皆様、
須坂市の宿泊施設のオーナー様
大変ありがとうございました。



ご清聴
ありがとうございました!!

